

農作物の生育状況と今後の見通し

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	水稲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コシヒカリ」「星空舞」「きぬむすめ」の出穂期は平年比1～2日遅かったが、成熟期は3～4日早まった。</li> <li>・「コシヒカリ」を中心に倒伏が見られ、台風等の影響で平年に比べやや多かった。</li> <li>・早生品種の収量は平年並。「ひとめぼれ」「コシヒカリ」の品質は2等中心で格落ち理由は、カメムシ、基部未熟、白未熟。「星空舞」は1等中心。</li> <li>・中生品種「きぬむすめ」は、9月中旬以降の日照不足の影響等で屑米が多く、収量はやや少ないとの現地からの声が聞かれる。</li> <li>・「トビイロウンカ」による坪枯が散見される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫作業の進行に努める。</li> <li>・トビイロウンカが発生しているほ場は、収穫適期の範囲内で早めに収穫する。</li> </ul>
	大豆	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月上中旬播種の早生品種「星のめぐみ」は落葉期～刈取適期、6月中下旬播種の中生品種「サチユタカ」は黄葉期で、いずれも莢付は良好。</li> <li>・全般的には、長梅雨の影響で、平年に比べ播種時期が遅いほ場が多く、主茎長は短く小ぶりで莢数が少ない。</li> <li>・農業試験場の、8月6日播種ほ場の開花期は、「星のめぐみ」は9月3日、「サチユタカ」は9月6日で、全体的な生育量は小ぶりだが、畝間を覆う程度の生育で、粒肥大期となっている。</li> <li>・生育期中耕・培土の不十分なほ場、出芽不良なほ場で、雑草繁茂が目立つ。</li> <li>・一部でハスモンヨトウ等の被害が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水対策を継続して実施する。</li> <li>・収穫前の雑草対策を徹底し、汚損粒の発生を防止する。</li> <li>・適期収穫、適正な乾燥調製を行う。</li> </ul>
果樹	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新興」は10月2日に査定会が開催され、10月9日より販売。現在、収穫・選果中である。</li> <li>・「王秋」は10月19日に査定会開催予定である。</li> <li>・園芸試験場の事前調査(9月10日)では、「王秋」のコルク状障害は昨年より多いと予想。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「新興」は今月末までの収穫、「王秋」は今月末から収穫・選果が始まる見込み。両品種ともに果色をよく確認して、適期収穫を徹底する。</li> <li>・「王秋」ではコルク状障害の発生が多いと予想されている。収穫前調査を行い発生状況確認し、選果を徹底する。</li> <li>・黒星病の多発園では収穫後防除を徹底するとともに、落葉処理等も行う。</li> </ul>
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「輝太郎」は、10月1日から選果が始まっている。</li> <li>・例年よりやや小玉で着色が遅い傾向。台風等の風の被害(枝スレ、傷)も少なく、昨年より赤秀率は高い傾向。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・果色の進みに合わせて、適期収穫を徹底する。</li> </ul>
	ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「シャインマスカット」の出荷は終了(北条 9月3日～10月2日)。</li> <li>・台風等の被害はなかったが、カスリ症によるアザが一部園で発生した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫後防除を徹底し、病害虫の越冬密度を減らす必要がある。</li> </ul>
野菜	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【春ねぎ】</li> <li>・夏期の高温乾燥の影響で、やや生育は遅れているが概ね順調。</li> <li>・一部で、ハモグリバエの食害が見られるが、順調に生育している。</li> <li>【夏ねぎ】</li> <li>・9月末で出荷終了だが、夏期の高温乾燥の影響で肥大が遅れ、一部で秋冬ねぎとして出荷中。</li> <li>・トンネル作型の播種が始まっている。</li> <li>【秋冬ねぎ】</li> <li>・夏期の高温乾燥の影響により生育が遅れている。また、9月中旬以降の降雨以後、急激な肥大による襟首割れなどの品質低下や萎凋が目立っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋冬ねぎは生育が遅れており、10月下旬から全体的な本格出荷となる見込み。</li> <li>・さび病、黒斑病の予防防除を徹底する。</li> <li>・ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、ヨトウムシ類の防除を徹底する。</li> <li>・収穫が降雪期にかかるほ場は、畝の両サイドにハウスバンドを張る等、葉折れ防止対策を降雪前に設置する。</li> </ul>
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>【秋冬どり】</li> <li>・定植は95%が終了。順調に生育している。</li> <li>・9月21日から収穫が始まり、10月10日から本格収穫となっている。特に問題なく出荷中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒すす病、黒腐病、べと病、菌核病の予防防除を徹底する。</li> </ul>
	ながいも	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年より1週間早くアクの消失が確認されたため、10月9日から地上部の刈り取りが解禁、10月15日から掘り取りが始まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月22日から出荷となる見込み。</li> <li>・地上部の片付けは解禁されたが乾燥物率向上による貯蔵中の腐敗防止を図るため、ひとまず11月末までに掘り取れる分を片付け、残りは完全に枯れてから片付ける。</li> </ul>
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の高温乾燥及び台風9号、10号の飛砂による種球埋没で生育遅れていたが、9月中旬以降の降雨で回復している。</li> <li>・ネギハモグリバエの発生は、例年と比較して少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネギハモグリバエの被害を受けないよう防除を徹底する。</li> <li>・10月下旬から白色疫病の予防散布を定期的に行う。</li> <li>・秋の追肥を増肥して、生育回復と分球促進を図る。</li> </ul>
	夏秋トマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は残り1～2段程度だが、気温低下が著しく着色が進まないため収穫が遅れている。</li> <li>・9月下旬から高単価が続いているが、10月上旬出荷量は前年対比57%と少なく、販売額は昨年同時期と同等の1.4億円。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月10日が最終出荷の予定。</li> <li>・10月中旬までにエスレル処理し、着色を促し収穫量を確保する。</li> </ul>
	抑制ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・順調に出荷中。出荷のピークは過ぎ、終盤に入る。</li> <li>・10月上旬まですすかび病、うどんこ病、ハモグリバエの発生が目立ったが終息し、大きな問題はない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、夜間保温でハウス内湿度が上昇するため、すすかび病、葉かび病の防除を徹底する。</li> <li>・防除の継続により、できるだけ出荷期間を長くし収量確保する。</li> </ul>
	にんじん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部で9月の台風時の飛砂による欠株があったが、全体としては9月中旬以降適度に降雨があり順調に生育。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒葉枯病、斑点病の防除を徹底する。</li> <li>・青首防止のための土寄せを徹底する。</li> </ul>
	いちご	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定植は10月上旬までに終了。夏期高温による花芽分化の遅れが懸念されたが、概ね平年並みで章姫及びとっておきは9月10日頃、紅ほっぺが9月15日頃であった。定植後の生育は概ね順調。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定植後の病害虫防除、特にハダニの防除を徹底する。</li> <li>・とっておきの施肥は章姫よりも多くし、初期成育の確保する。</li> </ul>
花き	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【ハウス抑制作型】</li> <li>【倉吉市】</li> <li>・9月下旬から出荷中。病害虫の発生は見られない。</li> <li>【北栄町】</li> <li>・9月20日頃から出荷が始まり、平年よりも前倒しで10月上旬に出荷ピークを迎えている(前年並)。現時点で計画の5割程度の出荷量となっている。</li> <li>・昨年よりもリン付き(3～5輪)率は高く、5割程度(前年同時期3割程度)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・F1オーガスタの種子供給が不透明で、F1オーガスタ以外の品種を注文せざるを得ない状況。</li> <li>・R3年用の種子の発芽率に不安があることから、発芽試験を依頼予定。</li> <li>・今後、気温の低下に伴い、出荷ペースが落ちてくると考えられるため、ハウスの保温に努めるとともに、葉枯病の防除を徹底する。</li> </ul>
	ストック	<ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】</li> <li>【船岡】</li> <li>・1戸が9月15日、1戸が9月30日に播種。彼岸用で発芽は順調。</li> </ul>	
畜産	飼料用トウモロコシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【鳥取・八頭地区】</li> <li>・ワルナスビが繁茂した八頭町内ほ場で、収穫後に全面防除を実施。</li> </ul>	
	イタリアンライグラス、飼料用稲等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イタリアンライグラス</li> <li>【東部地区】</li> <li>・播種作業中。</li> <li>【大山地区】</li> <li>・播種作業中。</li> <li>○飼料用稲WCS</li> <li>【鳥取・八頭地区】</li> <li>・鳥取市、八頭町で収穫作業中。170haのうち、半分程度が収穫終了。</li> <li>【東部管内】</li> <li>・収穫終了。収量は平年並みの見込。</li> <li>【西部地区】</li> <li>・生育は平年並、虫害認めず。</li> <li>○飼料用米SGS</li> <li>【鳥取・八頭地区】</li> <li>・SGS(もみ米のサイレージ)80ha、10月第2週から本格的に調製作業開始。</li> <li>○他牧草</li> <li>【鳥取・八頭地区】</li> <li>・9月28日に、湖山地区牧草の堆肥散布前掃除刈りを兼ねた収穫作業開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イタリアンライグラス</li> <li>【西部地区】</li> <li>・これから播種見込。</li> <li>○飼料用稲WCS</li> <li>【鳥取・八頭地区】</li> <li>・岩美町の収穫は11月開始見込。</li> </ul>